

3月1日～7日は春季全国火災予防運動

「ひとつずついね!で確認 火の用心」

●春先は火災が起きやすいシーズンです!

春は、冬に比べると、全国的に空気が乾燥しやすくなります。春一番のように強い南風が吹く季節でもあり、ひとたび火災が発生すると被害が大きくなりやすいので注意が必要です。

また春先は、農作業のために外で火を使う活動が始まる時季でもあります。気象条件をよく確認し、強風が予想される場合には火を使う活動を行わないようにしましょう。

家庭ゴミ等を自宅の庭などで燃やす行為は絶対に行わないようにしましょう。

【問い合わせ】ひたちなか・東海広域事務組合消防本部予防課(☎271-0735)



村火災予防ポスターコンクール
最優秀作品
舟石川小学校6年 西水 果歩さん

ふるさと歴訪 自然を探して

久慈川水系の自然

とある日の午後のことです。3月の穏やかな晴れの日、私はいつもの散歩道を歩いていました。すると雑草がまばらに生えた空き地の中を、野ウサギ2羽が餌を求めて忙しく跳びはねていましたが、私に気付くと、一目散りに近くの森の中に逃げ去って行きました。

その3か月後の蒸し暑い日の午後、久慈川の土手道を散歩していると、対岸の広々とした砂地で大小合わせて4頭の犬、いや、よく見るとホンドギツネの親子がじゃれ合っているではありませんか。野生のキツネを間近で見たのは長い人生の中で生まれて初めての経験であり、とても感動しました。

この時思い浮かんだのが、3か月前に出合った野ウサギの存在です。キツネと野ウサギは、捕食者と被捕食者という直接的な関係です。ウサギが増えればキツネが増え、ウサギが減れば捕食者であるキツネが減るという、生物群集における弱肉強食の関係で説明できます。

江戸時代以前は最強の肉食獣といえはニホンオオカミでしたが、明治時代に人の手で絶滅しています。そのため現在、キツネは



【ホンドギツネの親子(平成29年6月撮影)】

陸上動物の生態系ピラミッドの最頂点に位置する最強の肉食系動物です。その主な餌は鳥ネズミ、ウサギ等の小動物が中心であり、これらの数をコントロールしています。

以前には決して出合うことのなかったキツネの存在からも、久慈川水系一帯の自然環境は、徐々に改善の兆しが見えているようです。

初夏には毎年、南方からたくさんのチュウウサギ、アマサギ等の渡り鳥がやって来て、留鳥のダイサギ、アオサギ等と共に大規模なサギのコロニーをつくり繁殖しています。時々オオタカやハヤブサ等の猛禽類が上空を旋回し、これらのサギを襲う様子も見られます。

秋には川を遡上するサケや落ちアユを狙うミサゴが空中から飛び込んで、獲物をつかみ上げる姿を観察することができます。

時にはタヌキやイタチが水を飲む姿に出合えることがあります。冬になると、珍しい種類のカモが迷鳥として久慈川で休んでいる姿を見かけます。このように現在の久慈川水系は多様な自然環境に恵まれています。四季折々さまざまな動物に出合える場として、いつまでも大切にしたいと思っています。

前東海村自然調査会調査員

川上 仁司